

現在、名古屋大学では施設開放の積極的なPR活動はなされていません。しかし体育会が地域社会へのスポーツサービスを提供すれば、学生、職員、市民との交流が深まるとともに学生の貴重な社会体験になるのではないのでしょうか。

五 学内のイベント

◆体育会の事業

米国の大学には、正課体育であるフィジカル・エデュケーションのほかにレクリエーション・スポーツ、インタラミューラル・スポーツ、エクストラミューラル（またはインターカレッジイト）・スポーツの三つの種類があります。レクリエーション・スポーツは、健康維持やレジャーのために学生や教職員、あるいは地域の人が参加することもあります。インタラミューラル・スポーツは、学内対抗スポーツ大会のことです。そしてエクストラミューラル・スポーツは大学対抗戦としてメディアにも注目されています。名古屋大学でも体育実技、サークルや同好会およびスポーツ事業、体育会が主催する各種スポーツ大会、体育会運動部の

対外試合があります。ここではまず、主として学内のスポーツイベントを紹介しておきましょう。

体育会は、レクリエーション・スポーツや学内対抗スポーツ大会イントラミューラル・スポーツにも力をいれています。一九六〇年代は、四月下旬に軟式野球・卓球・バドミントンなどの比較的ポピュラーな種目の春季学内大会がおこなわれました。またスポーツ講習会として、ライフル射撃、護身術、馬術、スケートなどが開催されました。さらに名大祭では体育祭が大規模におこなわれていました。これらは二〇世紀初期のオリンピックが万国博覧会のアトラクションとしておこなわれていたこととも通じます。夏になると水泳大会やヨット講習会が開催されました。秋には秋季学内大会、耐久徒歩レース（犬山―名古屋大学間約四〇キロ）、駅伝大会、ボート、バスケットボール講習会、オープンワンデルング、ライフル、馬術講習会など盛りだくさんの行事がありました。冬になると須賀杯争奪駅伝、スキー講習会が開催されました。これらの行事は現在にもうけつがれています。

◆リーダーズ・アセンブリーとフレッシュマンズ・アセンブリー

一九六〇（昭和三五）年に始められたリーダーズ・アセンブリーは、各運動部の主将や主務などの幹部部員と学生部（現学務部）の職員、体育会常任委員が運動部の問題点の克服やマネ

ジメントについて研究する合宿です。いつぼう一九七五年から開催されたフレッシュユマーズ・アセンブリーは、体育会と各運動部の新入生、学務部職員が参加し、体育会の組織や事業への理解と、お互いの交流を図る合宿です。

◆須賀杯争奪駅伝競走

一九六四年に開始された須賀杯駅伝は、名古屋大学学生部長から豊田高等専門学校の校長になった須賀太郎が創始した大会です。豊田高専から名古屋大学までのおよそ二五キロは一般道を走るため、警察などへの事前の相談と許可を受けています。また選手や途中に立つ多くの整備員を移送するバスや看護車の手配まで、準備と当日のたいへんなマネジメントを体育会がこなしています。

◆山田杯争奪駅伝大会

山田杯争奪駅伝大会は、名大祭の期間中に一チーム六人で学内をリレーするミニ駅伝です。お祭り気分も手伝って派手なウエアでうけをねらった参加チームもあり、名大祭のスポーツ部門として体育会が主催しています。



七大戦総合優勝をかざる（第35回大会）

◆池谷杯学内レガッタ

レガッタは、定期的に開催されるボートレースです。ボート部部长であった池谷和夫の名前を冠している池谷杯学内レガッタは一九六九年に始められました。体育会が主催し、参加者をボート部艇庫の近くの庄内川に集めて開催されています。

◆ヨット講習会

体育会主催のヨット講習会は、真夏の常滑市鬼崎ヨットハーバーで開催されます。ヨット部員がインストラクターとして講習を実施しています。名古屋大学以外の学生や一般市民も参加できるため、夏のイベントにもなっています。